

令和五年度 一般選抜（後期日程）

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、表紙を含めて6ページあります。また解答用紙2枚と下書用紙1枚が配付されています。
試験中に問題冊子や解答用紙、下書用紙の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入してください。
（1）受験番号欄
（2）氏名欄
- 4 受験番号、氏名が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
- 5 設問の字数には句読点が含まれます。
- 6 試験終了後、問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 子育ては本能ではない

現代の日本のお母さん、お父さんは大変だ。核家族化が進む中、親に加わるプレッシャーが異常に大きくなってきた。昔は、大家族の中で、祖父母や親戚と一緒に子育てが行われてきたが、現代はほとんどの家庭では両親と子どもだけで暮らしている。今では、両親だけで子育てをする家庭が80%以上を占める。

人間にももちろん子育てのための本能は備わっているが、子育ての方法を知っているわけではない。出産もひとりではできないし、母乳さえ、教わらないとうまくあげられない。いつから離乳食を始めて、どうやってオムツをはずすのか……すべては、自分の親やそれ以外の誰かに教えてもらって初めて知るのである。

本能でほとんどの子育てを終えてしまう動物たちとは違って、子育てのやり方も多種多様である。5ヶ月から離乳食をあげなさいと言う人、1歳ごろまで無理にあげる必要は無いと言う人、3ヶ月から果汁を与えなさいと言う人、果汁はあげてはいけないと言う人……。少し前までは、周りの子育て経験者の教えを聞いていればよかったが、核家族では教えてくれない人はいない。かわりに、本に雑誌、インターネット、SNS……ありとあらゆる情報が入手可能となった。昔の迷信や誤った情報を排除できるという利点はあるのだが、孤独な母親に更なるプレッシャーを与えるという結果にもなっている。

そもそも、子どもの数が減り、子どもの価値が労働の担い手ではなく、親や社会全体の財産であると考えられるようになってきた現代では、子どもを素晴らしく育てあげることが親の義務であり、子どもの成功が親の成功であり、子育てが親の何よりも重要な仕事と考えられるようになってきた。

赤ちゃんの死亡率が高かった頃に比べると、ただ赤ちゃんが1歳になったというだけでは、素直に喜べない時代である。1歳まで生きるのは当たり前。重要なのは、「どんな」1歳になっていくか。体重はきちんと増えているか、はいはいはできるようになったか、よく笑うか……。さらには、「1歳過ぎてても立たないなんて大丈夫か?」「1歳半を過ぎてても言葉が出ないのは問題じゃないか。」「3歳になってもオムツが取れないのは誰のせい?」「親に対するプレッシャーは尽きない。」

子どもにかかるお金も増え続けている。昔は16歳にもなれば立派な稼ぎ手になっていたものだが、今ではほとんどの人が高校を卒業するようになった。大学に行くのさえもはや特殊なことではない。1960年ごろには10%程度だった大学進学率は、今では50%を超える。それどころか、10%を超える人が大学院に進むという。奨学金を受けたり、働きたがら学校に通う子どももいないわけではないが、多くの親が20歳を超える子どもの生活費や学費を払い続けているというのが現状である。学費だけではない。今や「個性」の時代。ひとりひとりの質を上げるために、水泳、書道、ピアノにバレエ、英語……勉強以外の習い

事もさせなければならぬ。

もちろん、お金だけかければよいのではない。子どもと一緒に遊びましょう、本を読み聞かせてあげましょう、外に連れて行ってあげましょう、歯は親が仕上げ磨きをしてあげましょう、勉強を見てあげましょう……子どもに手をかけ目をかけるべきだと、本や雑誌やテレビやインターネットが大合唱する。

一方で、女性の社会進出も進んできた。女性の4年制大学への進学率は45・8%(2012年)であり、50年前の10倍以上である。同時に、結婚出産をしても働き続けることを希望する人も増えてきた。希望しなくても、子育て費用の上昇に伴って働かないわけにいかないという事情もある。

だからと言って、女性の労働状況が急激に向上したというわけではない。一世代前に比べれば、法も整備され、子育てに理解を示す会社も増えてきたものの、欧米に比べればまだまだ女性の社会的地位は低い。出産と共に仕事をやめることを余儀なくされるケースも多い。さらには仕事はやめたものの、経済的な理由でより条件の悪い仕事に再就職することになることもある。

仕事を続けても、ワーキングマザーの会社での待遇は決してよくない。残業しない、突然休む、などの理由で同僚からの風当たりが強かったり、出世をあきらめることになったりする。しかも、**A**女性の就業が世間一般や家庭内で歓迎されているというわけでもない。子どもが小さい間は母親は家にいるべしという信仰は、まだまだ根強い。幼い子どもを持つ母親が、経済的に必要が無いのに働くのは利己的であるという考え方がいまだに強く支持されていることには、驚くばかりである。

また、女性の人生の選択肢も広がってきた。昔の女性の中では、結婚して、子どもを早く産んで、立派に育てることが成功であるという考え方が一般的であったが、今では多様化し、個人差が大きくなってきた。結婚するかしないか、子どもを持つか持たないか、仕事を続けるか続けないか、などなど正解の無い選択を無数にしなければならぬ。

選択肢や可能性が広がった分、欲求も期待も高まった。結婚には愛が無くてはならない、自分を磨いて賢くならなければならない、自分の価値を高める仕事をしなければならぬ、子どもをきちんと育てなければならぬ……。もちろんすべてを手に入れるのは無理なのだが、どれもこれも大事に思えて、現状の自分に満足できない。

男性へのプレッシャーも増えた。**B**イクメンという言葉がはやり、育児や家事に参加すべきという風潮が高まってきた。こちらも、核家族化が進む中で親世代の協力が減り、父親の役割が大きくなってきたという背景がある。父親が外で働き、母親が内を守るという家庭イメージが崩壊しつつある中で、会社からの期待やプレッシャーは変わらないのに、家でも子育てに参加し、家事をすることが期待される。

もちろん、親にとって生きにくい時代になった、昔より子育てが大変になったと、一概に言えるようなものではない。女性にも選択肢が与えられ、自由が与えられ、豊かな暮らしができるようになった。社会は成熟し、豊かになり、子どもの死という人生最大の悲しい経験

をする人も減った。しかし、自由や選択には代償がある。

現代の親は、孤独の中で子育てをしなければならぬ。本来人間は、社会的な動物であり、孤独の中で生きるようにはできていない。しかし、核家族が進むことで、集団の中にはなく、家の中に子どもと2人だけで隔離されるようになった。こうなると、相談する相手もない。少ない子どもを間違いなく育てなければならぬというプレッシャーは大きい。助けてくれる人はいない。失敗すれば虐待だと疑われるのではないかとおびえ、しかし、不適切な行為があってもそれを指摘し正してくれる人はいない。

子育てが共同で行われていた時代、不適切な養育の種は、芽が小さいうちに刈り取られることが多かっただろう。しかし、今は芽が大きく育ってしまうまで、誰も気付かない。ある程度問題が大きくなってから「虐待」であると指摘されると、多くの親は「親失格」であるように感じて傷つく。したがって、不適切であるかもしれない行為はできるだけ人目につかないように隠してしまう。こうしてますます、育児がブラックボックス化するという状況である。

2 インターネットの影響

C インターネットやSNSなどの新しい情報技術も、困難な育児に追い討ちをかけているのではないかと感じる。インターネットやスマートフォンという新しい技術は、家に行きながらにして外の世界とつながりを持ち続けることを可能にする。しかし、その反面、自分は孤独の中にいるのに、たくさん誘惑の中に身をおくことになってしまう。

ダイエット中のあなたは大好きなアイスクリームを我慢している。目の前に置かれたら、食べるのを我慢できるだろうか？ 冷凍庫の中にあると知っていたら？ では、家の中に無かったら？

昔の親には、そもそも誘惑が少なかった。多くの人が20代前半までに結婚して、子育てをしていた。それ以外の選択肢があまりなかったのだ。周りには同じぐらいの年の子どもを持つ友だちがいて、一緒に子育ての悩みを共感しあうことができた。ところが現代では、人生の選択肢が増えた。仕事に打ち込む、ある程度のキャリアを築いて独立を目指す、家庭に入って子育てする、家庭と仕事を両立する、子育てを若くに終えて新しいキャリアを築く……など、いろいろな選択肢がある。結婚や出産の年齢が非常に幅広くなったため、同じ世代の友だちが同時に子育てをすることも少なくなった。もちろん、どの選択をしても様々な苦労があるのだが、時として他の人たちをうらやましく感じることもある。特に子育てに追われて自分のしたいことが何もできない時期、周りの友だちを見て、外の世界に取り残されたように感じることは誰でもあるはずだ。

知らなければ我慢することも無いのだろうが、SNSやインターネットの普及によって、たくさん情報が簡単に手に入るようになった。フェイスブックには友達や会社が会社を立ち上げた報告があり、多くの人からお祝いメッセージが寄せられている。ラインには高校の

同級生の集いの案内が来る。

「それは今だけの話、他人には他人の苦労がある」と冷静に見られるのなら、何も問題は無い。しかし、周りの情報が簡単に手に入ることによって自分の状況が正しくないという焦りを抱き、自分が不幸だと感じたり、他人はすべて持って持っていて、自分だけが世界に取り残されて不幸のどん底にいるような気になってしまったりして、子どもに当たってしまったたり、誘惑を我慢できずに子どもを置いて遊びに行ってしまうとしたら、もはやSNSは凶器である。

もし、SNSを見て、他人がうらやましくなったり、落ち込んだりするのなら、一旦SNSは退会するという選択を考えたほうがよいのかもしれない。人脈を広げたり、情報を得る上でSNSは優れたツールであるのだが、その情報に振り回され、依存し、精神が蝕まれる人が多いことも事実である。

もうひとつ情報社会が危険だと思う点は、あふれる情報に無防備に晒されることである。インターネットを開くと、ほしい情報が簡単に手に入る。もちろん、様々な知識を得ることはすばらしい。離乳食の作り方、病気や怪我のときの対処法。外に出るのが難しい時期、そういった情報を手でできるのはすばらしい。

しかし、そこにあるすべての情報が正しいとは限らない。本は出版される前に、何かしらのチェックが入るが、インターネットではほとんどノーチェックで、発信したい人が自由に発信できる。簡単に発信し、簡単に手に入れることができるところがインターネットの魅力ではあるが、情報を受信する側には、取捨選択する能力を問われる。

1歳半になっても子どもが何も話さないとする。インターネットで調べると「発達障害」の疑い……。 「発達障害」を調べると恐ろしい情報がたくさん……。わたしの育て方がいけなかったのではないか、わたしが妊娠中にした行動がダメだったのではないか……。医師の立場から言うと、あまりにも間違ったり偏ったりした情報に惑わされている人が多すぎることに少々危機感を感じる。情報はうまく活用できるのであれば、どんどん活用すべきであるが、あふれる情報に混乱し、不安を感じるようであれば、情報には接しないほうが良いかもしれない。

最近はずっとスマートフォンの普及によって、インターネットやSNS、そしてゲームなどがいつでも使えるようになった。「ながら」スマホによる事故も増え、社会的な問題となっている。スマホに夢中になってしまい、公共の場で子どもから目を離してしまう親は多い。ゲームやSNSなどは中毒になる。これも子どものネグレクトの一因となろう。もし、家でも外でも、スマホから離れられないのであれば、やはりスマホを置くことを考えるべきであろう。

ダイエット中のあなたがアイスクリームを我慢しているのだとしたら、アイスクリームは目の前に置くべきではない。冷凍庫にも無いほうが良い。ほとんどの人間には、目の前にある誘惑に打ち勝つ精神力は備わっていない。インターネットやスマートフォン、SNS、テレビゲーム。最近の情報機器はすばらしい。誰もが夢中になる魅力がある。しかし、それ

を見ることによつて精神が不安になるのであれば、夢中になりすぎて子どもと向き合えないのであれば、そのすばらしさと子どもの未来のどちらが大切なのか、もう一度思い出ししてほしい。

(友田明美、藤澤玲子『虐待が脳を変える 脳科学者からのメッセージ』、新曜社、2018年より抜粋・一部改変)

問1 傍線Aについて、女性の就業が世間や家庭で歓迎されない理由を文中の言葉を使って2つ挙げ、それぞれ30字以内で書きなさい。

問2 傍線Bについて、イクメンに関する著者の考えを簡潔に要約し、著者の考えに対するあなたの考えを200字以内で書きなさい。

問3 傍線Cについて、SNSやインターネットの普及が育児に良くない影響を及ぼす状況を文中の言葉を使って3つ挙げ、それぞれ30字以内で書きなさい。

問4 本文を参考に、あなた自身が考える育児をしやすい社会像と、その社会の実現に向けてあなた自身ができることについて500字以内で書きなさい。

採点のポイント

問1 問の命題について、文中から、筆者の考えを読み取り、指定された文字数で簡潔に述べることをできるだけを採点しています。

解答例

- ① 子供が小さい間は、母親は家に居るべしという信仰がある
- ② 経済的に必要がないのに働くことは利己的という考えがある

問2 問の命題について、指定された文字数で述べることをできるだけを、次の要素からを採点しています。

- ① イクメンに対する著者の考えの要約
- ② 自分の考えの記述
- ③ 文章力（構成、文法、語彙など）

問3 問の命題について、本文の言葉を使い、指定された文字数で簡潔に述べることをできるだけを採点しています。

解答例

- ① 羨ましくなる情報に振り回され、依存し精神がむしばまれる状況
- ② あふれる情報に無防備にさらされ、不安を感じるような状況
- ③ スマホに夢中になり離れられず、子供と向き合えなくなる状況

問4 問の命題について、指定された文字数で述べることをできるだけを、次の要素から採点しています。

- ① 自分が考える育児がしやすい社会像に関する記述
- ② その社会をつくるために自分自身ができることに関する記述
- ③ 文章力（構成、文法、語彙など）